

令和7年9月1日

ふじみ野市議会

議長 加藤 恵一様

議会運営委員会

委員長 山田 敏夫

議会運営委員会視察調査報告書

令和7年第2回定例会において閉会中の継続調査の申し出をした所管事務に係る特定事件の調査について、令和7年7月23日及び7月24日の日程で宮城県大崎市及び登米市を視察し調査を実施したので下記のとおり報告します。

記

1 調査事項

議会活動の活性化について

2 出席委員

委員長	山田 敏夫	副委員長	塚越 洋一
委員	板倉 篤	委員	近藤 善則
委員	川畑 京子	委員	小林 憲人

3 議長出席

加藤 恵一 議長

4 視察の概要

○宮城県大崎市

大崎市は、平成18年に1市6町が合併し、東西に約80キロメートルの長さを持つ宮城県の北西部に位置する中心都市である。奥羽山脈から江合川と鳴瀬川の豊かな流れによって形成された広大で肥沃な平野「大崎耕土」を有する四季折々の食物、天然資源に恵まれた暮らしやすい温暖な気候に恵まれている

796.81平方キロメートルの市域に、119,703人（令和7年7月1日現在）の人口である。

1 大崎市議会の構成

（１）議員定数28人

（２）委員会の設置

総務常任委員会、民生常任委員会、産業常任委員会、建設常任委員会、議会運営委員会、情報化対策特別委員会、公共交通調査特別委員会

2 議会改革の取組例

（１）タブレット端末を導入し、執行部も同じペーパーレス会議システムを使用することにより事務の効率化を図っている。さらに、傍聴用の資料も電子化している。

（２）情報共有の面では、Web上のメニューにより欠席、遅刻、早退届も含め各種申請手続きができる取組を試行的に運用し、議員だけでなく事務局職員の業務効率化も図っている。サイドブックの仕分一覧有。

（３）オンライン会議（委員会）運営も検討、整備、導入を段階的に進め、感染症のまん延防止、大規模災害時、育児・介護等の事由での運用を視野に進めている。

3 意見交換会

（１）議会基本条例により開催を義務付けており、市の面積も広いため多様な方法、多くの地区、回数で市民対象、団体対象に開催している。

●市民意見等の整理（とりまとめ）の流れ

①意見集約⇒すべての市民意見を議会運営委員会で整理

②各委員会へ割振⇒所管委員会へ付託

③各委員会で調査活動

④調査結果を整理し、市民へのフィードバック

⑤検討課題・政策提言に反映、執行部職員との情報共有

1年間のスケジュール			
4～5月	7～8月	8～10月	11月
実施要綱	実施	委員会調査	フィードバック (報告書公表)

（２）高校生との意見交換会

次代を担う若者が市政への理解と関心を高め、地域の一員として主体的

に考え、地域の魅力を感じ郷土愛を育むこと、また、高校生の意見を聞く機会を設けることで若者の意見や考えを把握し、議会の充実強化につなげる。大崎市内の各高校を議会傍聴後に意見交換を実施した経験もある。全議員が参加する。

※高校生がテーマを決定し、自席から意見を述べ、議員に対する質問、再質問をする。

(3) 大学生との意見交換会

若年投票率の向上を目的に活動するNPO法人と、次代を担う若者が市政への理解と関心を高める、市行政及び議会を身近な存在として興味を持ってもらい、選挙権年齢の引き下げによる政治参加の意識醸成を図る。

○宮城県登米市

登米市は、平成17年に登米郡8町と本吉郡津山町の合併により誕生し、宮城県の北東部に位置し、北部は岩手県に接している。地勢は、西部が丘陵地帯、東北部が山間地帯で、その中心は平坦で肥沃な「登米耕土」を形成しており、面積は536.09平方キロメートルで県全体の約8%を占めている。

現在、本市と同じく市制施行20周年記念し、20年間の歩みを振り返りながら、未来へつなぐまちづくりの起点とするため記念事業を多数展開している。令和7年6月1日現在の人口71,144人である。

1 登米市議会の構成

(1) 議員定数24人

(2) 委員会の設置

総務企画常任委員会、教育民生常任委員会、産業建設常任委員会、予算決算常任委員会、広報広聴委員会、議会改革推進会議、政策企画調整会議

2 議会改革の取組について

(1) 議会改革推進会議の設置

●監視型議会⇒⇒市民参加型・提案型議会への転換を目的

①存在感のある議会を目指して

(議会の監視機能の強化・議会活動の透明化)

②議会の自主・自立を求めて

(議会制度の自由度の拡大)

③市民の信頼と期待に応えるために

(2) 常任委員会の年間活動計画（ロードマップ）

【背景】

- 委員会の調査に一貫性・継続性がない
- 問題・課題を深掘りする調査が不十分
- 多様化する市民ニーズに議会として調査が不十分

👉 **常任委員会活動の活性化が必要!!**

- 議会内で常任委員会活動の内容が共有されていない

👉 **常任委員会活動の見える化が必要!!**

【行動サイクル】



常任委員会年間活動テーマを決め、テーマに則した活動（所管事務調査、行政視察、意見交換会、事務事業評価等）を行う

【ロードマップは随時更新し、情報共有】



・ 委員会毎に年間活動テーマと活動内容を共有するため『年間活動計画』を作成する。



・ 政策企画調整会議で随時情報共有する



(3) 議会モニターの設置

- ①市内在住の18歳以上で20人以内
- ②議場活用事業の提案
- ③スマートフォン、QRコードの導入の提案

(4) 政策アドバイザーの採用

- ①議会基本条例の実効性を高める。
- ②市民とともに政策を作りあげる仕組みが必要である。
- ③早稲田大学マニフェスト研究所関係者から任命する。また、事務局職員も同所に派遣する。

(5) 議会による事務事業評価を実施

- ①執行機関の事務執行を監視・評価する。
- ②議会としての議決責任や説明責任を果たし、政策立案を行う。
- ③委員間討議⇒委員会評価⇒全体共有⇒決算審査後の討議⇒提言

(6) 通年議会の採用・導入

《まとめ（各委員所管）》

（山田敏夫委員長）

大崎市議会では、令和2年の総務省通知に基づいて、(1)大規模な災害の発生、感染症のまん延、その他個人の責めに帰すことができない事由(2)育児、介護、看護、その他委員長がやむを得ないと認める事由に該当する場合、オンラインによる会議を可能とする会議規則及び委員会条例の一部改正と運営規定が制定された。ふじみ野市議会においても、オンライン会議のために、会議規則等の検討がなされる必要があると考える。また、正副議長の立候補における「所信表明」については、既にいくつかの議会で行われていることでもあり、すぐにでも実施できることと考える。

登米市議会では、「通年議会」を導入している。導入に当たっては、様々なことを検討した結果、「議会が主体的に議会を開く仕組みになることで、議会に求められている政策立案能力や監視機能が強化され、民意の反映や災害時の緊急対応が充実するため、市民サービスの向上につながるものと捉えている。」ということである。デメリットもあるが、メリットの方が大きいということである。また、常任委員会では、委員会の調査に一貫性・継続性を持たせ、十分な調査を行うために、2年間の活動計画（ロードマップ）を作成して、議会内で常任委員会の活動内容の共有化と「活動の見える化」が図られ

ている。

(塚越洋一副委員長)

大崎市議会では、ふじみ野市と比較して、とてつもなく広い面積の合併自治体としての課題を議会改革によって乗り越えようとしている姿勢が感じられた。議会改革推進協議会については、会議規則で規定しているとのことであり、ふじみ野市議会としても直ちに検討すべきである。議会報告会は意見交換会としての役割も果たしていて、学ぶべき点が多かった。

登米市議会では、早稲田のマニ研の影響が改革の推進にあたって、かなり多く感じられた。通年議会のメリットはあまりないようにも見えた。議会モニターについては、時代遅れの制度ではないか。政策アドバイザーも悪くはないが、特定の専門家の考え方に誘導されることに対する懸念があり、複数のアドバイザーが望ましいのではないかと思う。

法務担当の専門性のある職員を総務部と併任して議会の仕事にも関わっているとのことについては、ふじみ野市議会事務局としても取り入れてもよいのではないか。

常任委員会の年間活動計画については、大変有効な方法だと思います。直ちにふじみ野市議会としても検討を始めた方がよいと思う。

情報の共有について、重要ポイントとして位置付けていることは、大変良いことである。

(板倉篤委員)

大崎市議会では、1市6町が合併して誕生した大崎市は800km²という広大な面積を持つことから、市民と議会をつなぐ議会報告会開催に当たっても様々な努力をされており、令和7年度は市内9会場にて開催しており、うち2か所の様子はオンライン配信も行った。また毎年常任委員会ごとに所管関係団体とも意見交換を行っており、当事者の生の声を聴けることは所管事務調査において大変重要であることから本市でも一層積極的な採用が望ましい。

委員会のオンライン開催の実績はまだないとのことだが、いざという時のためのルール作りを進めていることも参考になった。

登米市議会では、今年度よりふじみ野市議会でも各委員会でテーマを決めての活動をスタートしたところであるが、登米市でも常任委員会が年間活動テーマを定めてそれに準じた活動を行っていた。テーマにのっとりた委員会活動を進めるほか、事務事業評価も行いその結果を政策提言としてフィードバックするサイクルを作っている。これらの活動計画や進捗が一目でわかるロードマップを作成する取組を本市議会でも採用できれば委員会活動に一貫性が生まれ質の向上につながるものと考えます。登米市ではこのロードマップを委員会間での情報共有に活用されているが、さらに発展させて市民への公開までできれば

市政の見える化にも十分活用ができるものとする。

(近藤善則委員)

新幹線古川駅を降りて、まず目に入ったのは、「民本主義」を説いた吉野作造生誕の地という大きなモニュメントであった。大崎市役所は、シティホールと呼ぶにふさわしい、市民が集まる市民のためのホールで、市民が自由に利用していた。議長選で所信表明すること、説明した副議長が日本共産党議員であることに新鮮さを感じた。「立場の違いを超えて、一人一人が対等な人間として互いに尊敬し、責任を分担して支えあう」吉野の思い描いた民主主義の社会が引き継がれている証である。

9町の合併により誕生した登米市の市役所は、町役場を市役所にした建物であった。市議会議場は新しいものであったが、トイレは昔懐かしい和式であったことに驚いた。市民生活様式を考えると、市民が使いやすい洋式トイレにすべきだと思う。天皇が訪問したときは洋式トイレを用意したと聞くと、なおさらである。

(川畑京子委員)

大崎市議会では議会活動の活性化における議会運営委員会及び議会改革推進協議会の果たす役割などについて視察研修を行った。

主な議会改革の取組として、高校生・大学生及び各種団体と常任委員会との意見交換、また、市民を対象とし、地域へ足を運び議会報告会を開催するなど議会の充実強化に向け、議会運営委員会が主管となり、積極的かつ丁寧な市民意見の集約が行われていた活動量は参考にしたい点である。令和7年度はオンラインでの議会報告会を試行的に開催し、ワールドカフェ形式による意見交換会も予定されていた。効果的な情報発信強化や活発な活動についても今後の参考としていきたい。

登米市議会では、議会活動の活性化の弱点となっていた調査活動の強化や委員会活動の情報共有について、政策企画調整会議を開催し、各常任委員会のロードマップを作成し、年間活動テーマを設定することで常任委員会活動の見える化に取り組んでいる点が特徴的であった。

参考にしたい取組として、ふじみ野市議会においても課題の引継ぎや活動スケジュールの調整において、効果的であるとする。

(小林憲人委員)

大崎市議会では、オンラインでの常任委員会の開催に必要なプラットフォームづくりができていることに感心をした。実際の運用はしていないようであったが、いざという時にできる状況を作っておくことは、重要であり必要である。

他方、課題としては、有料無料を含めたアプリケーションの選択、本人確認、自由な意思表示などが挙げられる。したがって、上記課題を解決しながら、ふじみ野市議会でもプラットフォームの作成に取り組む必要があると考える。

登米市議会では、身の丈にあった改革を着実に進めている印象で、事務事業評価や常任委員会の年間計画（ロードマップ）の立て方、政策の共有（政策企画調整会議）などは、大変参考になった。

特に、常任委員会の年間計画の立て方は、ふじみ野市議会（市民・都市常任委員会）でも早速取り入れられるものなので、来月にも参考にした計画を作成したい。

その他、政策アドバイザーや議会改革推進委員会の学識経験者への報酬を予算計上しているそうなので、議会が招致する第三者への費用弁償費の枠をとっておく必要があると考える。